

女性のエンパワーメントと「二重負担」という辛く厳しい現実

マリスナ・ユリアンティ（インドネシア）

女性たちはあらゆる所で、いつでもどこでも働いています。農園で畑を耕していたり、山で茶葉やコーヒー豆を摘んでいたりと、市場で果物や野菜を売っていたり、弁護士や教師、エンジニアとしてオフィスなどで四六時中働いていたりますのです。世界の人口の半分は女性です。その女性たちがさまざまな経済活動に参加することで、世界的に女性の就労率は約50%に達していると、複数の研究が報告しています¹。しかし、この統計値には議論の余地も残ります。女性はインフォーマル部門での労働や目に見えない有償労働に従事して経済に貢献していますが、それを換算すると就労率はもっと高くなる可能性があるのです。このような傾向の要因として、一家の大黒柱としての男女の役割に近年変化が起きており、より多くの女性が職に就いて収入を得られるようになったことが挙げられます。その一方で、男女が家事をどのように分担しているかについてはあまり明らかにされていません。家族の世話や家事は、依然として圧倒的に女性が担っています²。世界の至る所で、女性が困難な状況に直面しています。家事をこなしつつ働いて収入を得るとい、より重い責任を負わなくてはならない状況にあるのです。女性が仕事と家事をどうにか両立させている状況を指して、専門家は「二重負担」と呼んでいます。このような実情は男女間の労働分担の不均衡から生じています。

女性の経済的エンパワーメントがもたらされたのは、主に国際社会が数多くの取り組みを行ったことにより、女性の能力が引き出され、さまざまな領域への有意義な参画が可能になったからです。その取り組みの一つが、女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(CEDAW)で、1979年に採択され、189ヶ国が締約国となっています。とりわけ、CEDAWは女性の政治的・公的活動への平等な参画と機会の均等を目指しています。また1995年に採択された北京行動綱領では、特にジェンダー主流化がうたわれており、中でも開発政策・計画への女性の関与に重点が置かれています。これを受けてインドネシアでは、大統領指示書(Presidential Instruction No. 9/2000)「国家開発におけるジェンダー主流化」を採択し、国を挙げた取り組みに発展させました。さらに進んで、国レベル・地方レベルの議会における女性議員のクォータ制も導入しました。これらはすべて、より多くの女性を社会に送り出し、より幅広い機会を得られるようにすることを目的としています。さらには、女性が社会に進出することだけではなく、有意義な生活、ひいては素晴らしい人生を送ることができるように意図されたものです。

しかし、そこには注意すべき点もあります。それは、女性のエンパワーメントに向けたいかなる取り組みを行っても、同時に男性たちが「自分自身が変わり、女性と平等に分担しよう」という意思を持たなければ、単に二重負担という厳しい現実には女性たちを追い込んでしまうに過ぎないということです。女性のエンパワーメントが主に目指しているのは、女性たちによる社会参加やさまざまなリソースの管理を可能にし、その機会を広げることです。一方で男性のエンパワーメントは、女性が経験しているジェンダーの不平等に対して男性の意識を高め、男女が公平に恩恵を受けることができる平等な社会の実現のため、男性の関与を強める方法を見いだすという目的があります。生活の向上や男女の幸福を目指したいいかなる開発計画においても、このアプローチを考慮する必要があります。生活向上のための新たな知見やスキル、技術などを得る機会を提供する以外にも、家の内外での労働をより公平に分担するという共通の目標を達成するために、男女ともにジェンダー関係や分担することの重要性についての知識を身に付けてもらうことが重要なのです。

¹ 世界銀行(2017) 女性の就労率 (15歳以上の女性の人口に占める割合) <https://data.worldbank.org/indicator/SL.TLF.CACT.FE.ZS>

² Bingham, J. (2016) 'New men' still not doing fair share on domestic front - but what chores do they do? 「『新男性(家事・育児を積極的に行う男性)』でさえも家庭内の労働を公平に分担していない—ならば、彼らはどのような家事をしているのか? (仮訳)」 <http://www.telegraph.co.uk/news/2016/11/10/new-men-still-missing-on-the-domestic-front/>

オランダの開発援助団体である Hivos は、この二つをうまく両立している数少ない組織の一つです。インドネシアにおいて、Hivos はコミュニティ・ベースによる再生可能エネルギーの開発プロジェクトを手掛けるパイオニアであり、太陽光発電とバイオガス発電による電力を数多くの貧しいコミュニティに供給しています³。Hivos は、バイオガス発生装置の運用と維持管理のためのキャパシティ・ビルディングを実施すると同時に、コミュニティの男女がどれくらい家事と農作業に従事しているかを計測し、ジェンダー影響評価を実施しました。さらにその結果を踏まえ、ジェンダー・アクション学習システム(GALS)を活用したジェンダー・トレーニングを行いました。この GALS では、夫婦にそれぞれが携わる家計収入につながる労働を挙げてもらい、さらに世帯として最良の成果を得るために二人が協力して解消できるような格差がそこにあるかを分析してもらいます。そこを起点として、二人で共通の夢を設定し、それを実現するための戦略を練ってもらうのです。このトレーニングを通して、普段は見過ごされ当然のことだと思われるジェンダー不平等に多くの男女が気づかされ、目からうろこが落ちるような経験をしています。GALS を通じて、労働の分担や意志決定権において、男女間に不均衡があるということが明らかになるからです。女性はすべての家事を担いながらも、なお夫とさほど変わらない時間を農園で働いて過ごすことが求められています。さらに、重要な決断を下す際に女性にはほとんど意見を求められず、家やコミュニティに関わる戦略的な事柄に関しても、女性には最終決定権がほぼ与えられていないという事実も明らかになっています。

GALS は、このプロジェクトにおいて新たなエネルギー源を導入するにあたり、ジェンダーに関連した望ましくない影響を最小限に抑えるのに有効なメソッドといえます。プロジェクトとして最も避けたいのは、新たな電力の導入に伴って女性の仕事が増えてしまうという事態です。現状でも多くの女性が二重負担という厳しい現実と直面していますが、より安定した電力の供給が受けられるとなると、夜間に炊事をしたり副収入のために布を織ったりマットを編んだり、女性の仕事を増やすことにつながっても不思議ではありません。しかし、このジェンダーに関する意識向上のためのトレーニングを通じて、男性が以前よりも家事に携わるようになり、家庭内でより公平に労働を分担することが期待されます。同時に、女性は家庭やコミュニティに関する戦略的な意思決定に以前よりも関与することが期待されます。女性と男性の力関係がより均衡になって初めて、双方が新たな電力の恩恵を十分に享受できるのです。

このような女性による二重負担は、村落だけで起きている現象ではありません。家事と仕事を両立させなければならないのは、都市部の働く母親たちも同じであり、切実な問題となっています。インドネシアにおける二重負担の現象は、国内の女性が経営する中小企業についてアジア財団が 2013 年に行った調査に記録されています。そこには、女性が家事や育児といった家庭内の責任を過度に負担している現状が示されています。興味深いのは、一般的に女性がこれを厄介な負担だと感じていないのは、彼女たちは経済活動への参加を控えるという事実です⁴。同じような結果が、ネパールの Regmi 氏による研究(2010 年)でも報告されています。それは、女性が収入を得るためのさまざまな活動に携わる場合、その負担は減少するのではなく、むしろ増加するというものです⁵。同じ研究で、女性の収入は家族の幸福に大きく貢献しているにもかかわらず、往々にして過小評価されているという事実も報告されています。都市部のコミュニティで女性にかかっている二重負担に関しては、職場における方針の策定が有効であると専門家は述べています。具体的には、子供の出生や病気の際に父親も育児休暇を取得できるようにする⁶、勤務時間に柔軟性を持たせる、在宅勤務の機会を増やすなどして、男性も家事や育児により従事しやすい労働環境を整え、同時に

³ インドネシアにおける Hivos によるプロジェクトの一覧は、<https://hivos.org/country/id/projects> を参照。

⁴ アジア財団(2013) Access to Trade and Growth of Women's SMEs in APEC Developing Countries: Evaluating the Business Environment in Indonesia. 「APEC の発展途上国において女性が経営する中小企業との取引へのアクセスとその成長：インドネシアにおけるビジネス環境の評価(仮訳)」

⁵ Regmi, S. (2010). Women's Micro-business Creation for Women's Empowerment or Family's Welfare? Case of Nepalese Rural Women. 「女性によるマイクロビジネスの起業は女性のエンパワーメントのためか、それとも家族の幸福のためか？ネパール農村部の女性の事例(仮訳)」, お茶の水大学。

⁶ Barker, G., & Pawlak, P. (2011). Men, Families, Gender Equality and Care Work 「男性、家族、ジェンダー平等および家族の世話(仮訳)」, Men in Families and Family Policy in a Changing World 『変化する世の中における家族の中の男性の存在、および家族の方針(仮訳)』, 9 - 40. 国連経済社会局, ニューヨーク

これらの制度を利用した人が職場で不利益を被るようなリスクをなくすことが⁷、ワーク・ライフ・バランスの実現に特に効果的であると専門家は指摘しています。同様に、このような取り組みを行うことで、家事や子育ては男女が公平に負うべき責任であり、男性が積極的に役割を果たすべきだとする意識の変革にもつながるでしょう。

二重負担という現実には、多くの社会でたくさんの女性たちが今なお苦しんでいるのは、嘆かわしい事です。ジェンダー平等への反対を長年唱えている人たちは、二重負担について、女性がエンパワーメントと解放を求めて長い間闘い、同時にその恩恵を受けた結果、自らが招いたものだと主張するでしょう。しかし実際は、様々な科学的調査の結果が示すように、男性が既得権を手放すことができず、労働を分担する意思もないことの必然的な結果として、女性が二重負担を強いられているのです。この女性の二重負担が原因で、家庭やコミュニティがその能力を存分に発揮し、開発の恩恵を最大限に享受することができないという事態に陥っています。この現実には、好むと好まざるとにかかわらず、女性と男性の双方にとって不都合なことです。そのため、女性のエンパワーメントとジェンダー平等の実現に向けた道筋を男性も共に歩むようにすることが、重要なだけでなく不可欠でもあるのです。より多くの男性の意識改革が進められるなか、女性の二重負担という辛く厳しい現実が、人々の記憶から消えて過去のものとなるのも時間の問題でしょう。



「農家の女性は農園でも家庭でも懸命に働いています。男女間の労働分担の不均衡が、やがて女性の二重負担という現象に発展するのです」

⁷ Lyness, K. S., Gornick, J. C., Stone, P., & Grotto, A. R. (2012). It's all about control: Worker control over schedule and hours in cross-national context 「全てはコントロールにあり：労働者のスケジュールと勤務時間のコントロールの国際比較（仮訳）」, *American Sociological Review* (アメリカ社会学会機関紙), 0003122412465331.